

## 概論

本プロジェクトにおいては slack での情報交換、zoom での定期会議により進行を行った。

まず、簡単な自己紹介を行った。そこで、留学経験者が2名いる事、海外 → 国内の留学生ネットワークを保持するメンバーがいる事、英語教員が学生時代の英語教育・学生留学についての情報聴取が得やすい事、の3点から留学情報の多面的な考察が可能と考えた。そこで、“効率的な留学の仕方について”をテーマに設定した。但し、自身の留学が既に終了しているメンバー、キャリア的に留学に行くタイミングを外れているメンバーが存在する事から、“自分が効率の良い留学をする”ため、というテーマを超え、“同僚/後輩に留学に魅力を感じてもらい、1人でも多くの教員に留学に行って貰うためには、どうすれば良いか?”という視点を設けた。

プロジェクト進行の上で、下記の目標を意識した。

- [1] 構成メンバー(ミドルキャリアでワークライフバランスが重要となって研究者)同士の情報交換を図る
- [2] 留学情報を調査する事で、後輩への留学情報の提供の際の参考にする
- [3] 調査情報の発表・しあキャリへの情報提供や要望を伝える事で、本学の留学推進を加速させる

## 行った事

- ◆ メンバー同士での discussion
- ◆ 留学についての公開情報について広く収集
- ◆ 学生海外 BSL 者や日本医科大学医師での留学生の公開情報を元にした追跡調査
- ◆ 海外 → 日本への留学生へのアンケート
- ◆ 日本 → 海外への留学生へのアンケート

## メンバー同士での discussion

### [1] 留学について下記の様なコメントが出た

◆ キャリアパスの上で、どのタイミングで留学に行くかを早めから熟慮する事が必要、例えば、24歳医師免許取得 → 26歳初期研修終了 → 28歳大学院進学 → 32歳大学院修了（同時期に専門医取得）→ 39歳くらいまでの間に留学、と考えた時、ちょうど結婚・出産などのイベントが重なりがち。配偶者の仕事や育児希望があればそのタイミングなどを予め、良く熟慮する必要がある。特に育児希望のある女性医師にとっては死活問題。

◆ 給与が少なく忙しい大学病院の魅力は低下する一方である。専門医取得後は医局を辞める流れが一般化しつつある。留学を含めた学術活動が魅力的に映れば、若手-中堅の教員の離職を引き留める事が出来るのでは？

◆ 留学の情報は一部の医局では殆ど得る事が出来ず、情報格差が著しい。アーリーキャリアの内に医局を超えた枠組みでの情報提供があると留学が促進出来るはず。

◆ 留学のステップ(ビザの取り方、助成金のリスト、家をどう手配したか？の事例集など)について、しあキャリが情報を収集して公開してくれると大変に有り難い。外部での留学体験者のネットワークも存在する。こういったサイトを紹介してくれるだけでも良いのでは？(留学体験記 | UJA web site <https://www.uja-info.org/articles>)

◆ 同じ留学先ないし留学国に行った日本医大の先生がいれば問い合わせたいので、そういった情報を学内向けに公開出来ないか？問い合わせ出来ると留学前の準備が破格に進みやすくなると思う。医局が一緒・学年が近いなどあれば、問い合わせに快く応じてくれると思うが、全員がそうでも無い可能性もあるので、amazon チケット、しあキャリの研究補助員の応募の際のポイントなどで対応出来ないか？

◆ 例えば、下記の様な金銭面での情報提供はあっても良いのでは無いかな？

\* 1月1日より前に日本の住民票を抜く事で住民税の課税を避ける事が出来る

\* 2カ国間の社会保障協定などに入れば、一部の国では社会保険が免除となる。(例: スイスでは夫婦で10万円/月程度の節約となった)

◆ 学内助成についての広報がもっとあっても良いのでは？教員の海外留学女性は月15万円ないし21万円+航空費×2年=200-300万円×2年は相当に高額な部類に入り、必ず申請したい。但し、資格に常勤の position の有無が入ってくるので、人事との絡みが出てくるが、気付くと申請資格が間に合わなかったりする。

◆ 子持ちだと、金銭面と教育面の問題から留学に行きにくい。

## [2] しあキャリへの意見として下記の様なコメントが出た

◆ メンバーの多くが共働き+未就学児持ちで留学以前に日々の臨床業務をこなすだけでも大変。しあキャリないし大学本部には、この様なキャリアの大変な時期にいる教員にもっと寄り添って欲しいと感じている。

◆ しあキャリは多様性を唄いながら、メンバーは女性のみである。男性医師未就学児持ち・共働きの構成員にとって、ダイバーシティインクルージョンをされている、との実感を感じない。

◆ full time+共働き+未就学持ちの女性医師は少なく、モデルケースが不足している。時短助教は大学に居続けるという意味では良いが、マミートラックにはまり混む危険性が高い。

## 留学に関する公開情報

### [1] 留学を促進する観点から下記論文をメンバー間で供覧した

Oka H, Ishida Y, Hong G. Study of factors related to the attitudes toward studying abroad among preclinical/clinical undergraduate dental students at three dental schools in Japan. Clin Exp Dent Res. 2018;4(4):119-124.

- ◆ 上記の広島大学歯学部よりの報告。日本の3つの歯科大学へのアンケート調査。
- ◆ junior (2-4年目)と senior (5-6年目)のアンケートの対比がメイン
- ◆ 2/3程度が留学希望あり

TABLE 1B Interests in studying abroad (n = 439)

	Junior			Senior			P ("J" vs. "S")
	Yes	No	N/A	Yes	No	N/A	
Do you want to study abroad?	177	85	3	108	63	3	0.56
Do you have experiences/plans to study abroad?	48	210	7	39	127	8	0.24

Note. Two groups' responses to the questions about desires and experiences related to studying abroad.

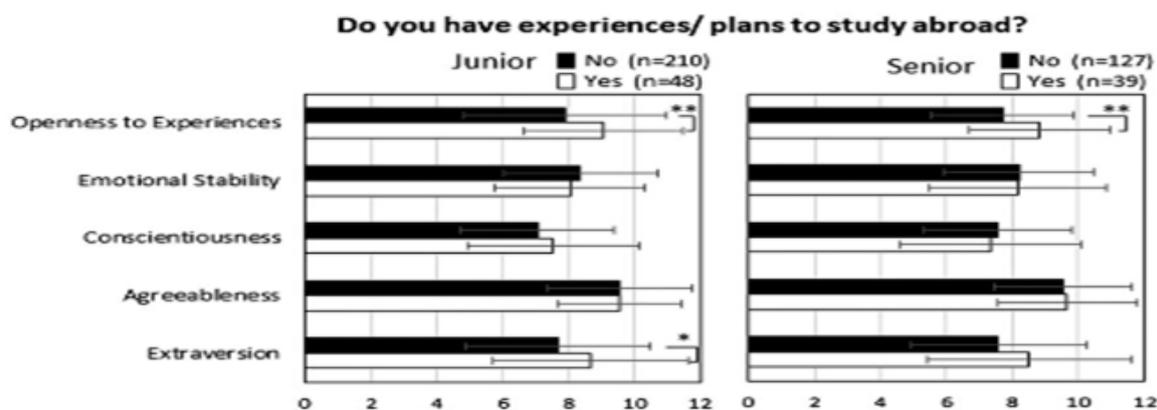
- ◆ 留学の上での懸念は日常生活における言語の壁である。junior → senior になるにつれて、現実的な判断が大きくなる（言語の壁はむしろ seniorの方が大きく感じている。留学に意義が無いと考える人が増える）

TABLE 2 Participants average scores with regard to concerns about studying abroad

	Junior		Senior		t	P value
	Mean	SD	Mean	SD		
Lack of language ability in daily life	5.60	1.48	5.96	1.21	-2.77	0.01**
Lack of language ability in academic fields	6.09	1.26	6.25	1.06	-1.41	0.16
The cost of overseas trip and living expenses	5.77	1.42	6.18	5.44	-0.14	0.89
Tuition fees	5.39	1.55	5.54	1.34	-1.13	0.26
Difficulties for the accommodation	5.03	1.50	5.13	1.40	-0.71	0.48
Higher quality of facilities and environment	4.53	1.32	4.82	1.28	-2.24	0.03*
Lower quality of facilities and environment	3.48	1.27	3.74	1.36	-2.01	0.04*
Lack of specialized knowledge	5.59	1.31	5.27	1.36	2.38	0.02*
Delay of the graduation	5.00	1.78	4.83	1.76	0.83	0.41
Complicated procedure for the application	5.18	1.50	5.28	1.33	-0.75	0.46
Lack of information to study abroad	5.28	1.25	5.28	1.33	-0.00	1.00
Worries about life in a foreign country	5.37	1.63	5.37	1.51	-0.00	1.00
Worries about the interpersonal relationship in foreign countries	5.31	1.69	5.24	1.55	0.42	0.67
No friends in foreign countries	5.31	1.80	5.35	1.66	-0.27	0.78
No benefits/meaning from studying abroad	2.91	1.73	3.45	1.82	-3.07	0.00**
No clinical training (participants only do observations)	3.97	1.50	4.63	4.85	-1.75	0.08

Note. "Score" represents the average score for each group (1 = strongly disagree, 7 = strongly agree, 4 = neutral). Welch's t test: \*P < 0.05. \*\*P < 0.01.

- ◆ 回答者の性格要素を big five という手法で評価すると openness がある学生は留学志向が強く、言語力の無さ、海外生活への不安を感じづらく、そのためか海外に行く事のメリットを高く評価している



**TABLE 4** Openness to experience and participants average scores with regard to concerns about studying abroad

	Open group		Less-open group		t	P value
	Mean	SD	Mean	SD		
Lack of language ability in daily life	4.89	1.88	6.08	1.33	4.09	0.00***
Lack of language ability in academic fields	5.83	1.42	6.35	1.29	2.15	0.03*
The cost of overseas trip and living expenses	5.58	1.75	5.64	1.61	0.22	0.83
Tuition fees	5.45	1.71	5.21	1.67	-0.80	0.42
Difficulties for the accommodation	4.66	1.76	4.98	1.58	1.07	0.29
Higher quality of facilities and environment	4.19	1.44	4.78	1.38	2.36	0.02*
Lower quality of facilities and environment	3.27	1.22	3.12	1.18	-0.69	0.49
Lack of specialized knowledge	5.42	1.48	5.59	1.56	0.62	0.54
Delay of the graduation	4.91	1.77	4.95	2.09	0.13	0.90
Complicated procedure for the application	4.94	1.69	5.25	1.66	1.04	0.30
Lack of information to study abroad	5.36	1.36	5.42	1.39	0.23	0.82
Worries about life in a foreign country	4.59	1.85	5.75	1.70	3.62	0.00***
Worries about the interpersonal relationship in foreign countries	4.59	1.99	5.78	1.45	3.82	0.00***
No friends in foreign countries	4.72	2.07	5.75	1.75	3.00	0.00***
No benefits/meaning from studying abroad	2.55	1.74	3.48	1.97	2.80	0.01**
No clinical training (participants only do observations)	4.00	1.83	4.15	1.74	0.47	0.64

Note. Open group: openness to experience score higher than 1 SD from the mean. Less-Open group: openness to experience score lower than 1 SD from the mean. \*Score\* represents the average score for each group (1 = strongly disagree, 7 = strongly agree, 4 = neutral). Welch's t test: \*P < 0.05. \*\*P < 0.01. \*\*\*P < 0.001.

- ◆ 上記の結果を踏まえ、論文では下記の様なポイントが指摘されていた。
- \* 学生の性格的志向は課外活動などにより影響を受けうる（コロナ禍で性格的志向が変化する可能性はある）
- \* 個人的な性格的志向とは別に留学におけるハードル（言語・生活の面）を下げる事が有用と考えられる。

**上記論文を踏まえたメンバー意見**

- ◆ 効率的な留学情報を伝達する上で、画一的な支援では無く、構成員の多様な性格的要素を考慮した上での情報提供が有用かもしれない。
- ◆ 学生時代をコロナ禍で過ごし、課外活動などが制限される事で、学生の性格的志向が変化し、留学志向の傾向にも変化が出てくるかもしれない。

## [2] 下記の様な留学支援の取り組みを発見した

### ◆ 一般企業における帯同システム

配偶者が海外勤務中は休職扱い（社会保障費の有り無しは企業による）。3年程度まで。配偶者の留学の際に離職を防ぐ事が出来れば有用である。

### ◆ 放射線科専門医会による留学斡旋システム

専門医会に専門領域と留学希望を伝えると、伝手がある教授とマッチングしてくれる。

### ◆ オンラインと短期留学を組み合わせた留学の仕組みを発見した

Virtual Study Abroad (例: <https://ip.wsu.edu/study-abroad/virtual-programs/>)

\* Webでの座学と短期留学(2週間程度)の組み合わせのプログラム

\* 短期なので、家族持ちでも負担が少ない

\* 座学で学べる物に限られるが、公衆衛生・画像解析・AIなどはオンラインでも学べる所があるかもしれない

\* 2週間程度はワークショップがあるので、そこでネットワーク作りも可能かもしれない

## [3] 海外留学に当たっての奨学金についての情報を収集した。

◆ 日本学術振興会のPDまたはSPDでの雇用を得る事で、PDについては採用期間の1/2以内、SPDについては採用期間の2/3以内の留学あり（研究費込み）の仕組みを利用出来る事を見つけた。SPDは中々ハードルが高いがPDでも（月額36万円+研究費年間150万円）かなり額としては大きい。但し、バイトが不可になってしまうので、タイミングが相当にマッチしないと現実的ではない。

◆ 国内の海外留学助成について、昨年度実績を許に、一覧を作成中である。

リンク：奨学金一覧 <https://bre.is/CUUYPuR6>

◆ 申請先が海外の留学助成については、下記文献を参照の事

研究留学のすゝめ！ | UJA (海外日本人研究者ネットワーク) , カガクシャ・ネット | 科学・テクノロジー | Kindleストア | Amazon

<https://www.amazon.co.jp/dp/B0895D9M9V/ref=dp-kindle-redirect>

国際プロジェクトの助成金	助成団体	サポート	助成期間	URL
The Human Frontier Science Program	The Human Frontier Science Program	46,800ドル/年 (USAの場合)	3年間	<a href="http://www.hfsp.org/funding/postdoctoral-fellowships/guidelines">http://www.hfsp.org/funding/postdoctoral-fellowships/guidelines</a>
アメリカの助成金		サポート	助成期間	URL
Glenn/AFAR Postdoctoral Fellowship Program for Translational Research on Aging	The Glenn Foundation for Medical Research	49,000ドルと60,000ドル	1年間	<a href="http://www.afar.org/research/funding/glenn-postdoc/">http://www.afar.org/research/funding/glenn-postdoc/</a>
The American Lung Association Awards and Grants Program, Senior Research Training Fellowship	The American Lung Association	32,500ドル/年	2年間	<a href="http://www.lung.org/our-initiatives/research/awards-and-grant-funding/opportunities.html">http://www.lung.org/our-initiatives/research/awards-and-grant-funding/opportunities.html</a>
The ASH Research Training Award for Fellows	The American Society of Hematology	55,000ドル/年	1年間	<a href="http://www.hematology.org/Awards/Career-Training/435.aspx">http://www.hematology.org/Awards/Career-Training/435.aspx</a>
Career Development Program	The Leukemia & Lymphoma Society (LLS)	55,000ドル/年	3年間	<a href="http://www.lls.org/research/career-development-program">http://www.lls.org/research/career-development-program</a>
The Helen Hay Whitney Foundation Fellowship	The Helen Hay Whitney Foundation	51,000ドル/年	3年間	<a href="http://www.hhwf.org/HTMLSrc/ResearchFellowships.html">http://www.hhwf.org/HTMLSrc/ResearchFellowships.html</a>
Life Science Research Foundation Fellowship	Life Sciences Research Foundation	60,000ドル/年	3年間	<a href="http://www.lsrfl.org/apply/application-instructions">http://www.lsrfl.org/apply/application-instructions</a>
NIH K awards series (fellow to faculty career development)	NIH	卒業後年数による	5年間	<a href="https://researchtraining.nih.gov/programs/career-development">https://researchtraining.nih.gov/programs/career-development</a>
NIH F fellowship awards series	NIH	卒業後年数による	3年以内	<a href="https://researchtraining.nih.gov/programs/fellowships">https://researchtraining.nih.gov/programs/fellowships</a>
AHA (American Heart Association) Postdoctoral Fellowship	American Heart Association	卒業後年数による	2年間	<a href="https://professional.heart.org/professional/ResearchPrograms/ApplicationInformation/UCM_443514_Postdoctoral-Fellowship.jsp">https://professional.heart.org/professional/ResearchPrograms/ApplicationInformation/UCM_443514_Postdoctoral-Fellowship.jsp</a>
ASN (American Society of Nephrology) Research Fellowships	American Society of Nephrology	50,000ドル/年	2年以内	<a href="https://www.asn-online.org/grants/fellowships/">https://www.asn-online.org/grants/fellowships/</a>
AST/TIRN Fellowship Research Grant	American Society of Transplant, Transplant Immunology research network	50,000ドル/年	2年以内	<a href="http://www.tirn.org/pdfs/AST%20TIRN%20Grants%20Info%20Packet%20for%202016%20Fellowship%20Research%20Grants.pdf">http://www.tirn.org/pdfs/AST%20TIRN%20Grants%20Info%20Packet%20for%202016%20Fellowship%20Research%20Grants.pdf</a>

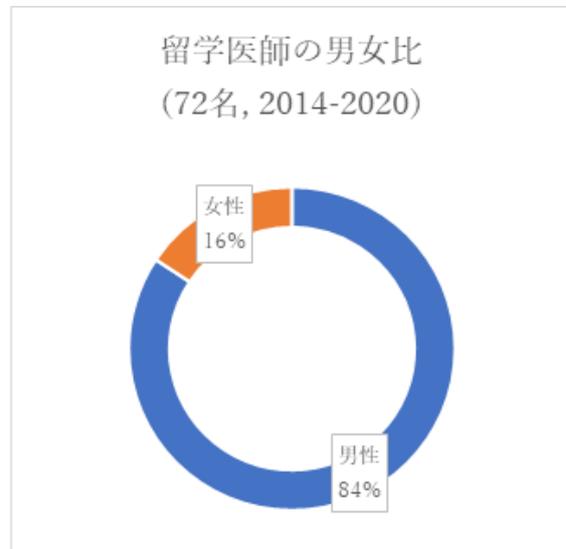
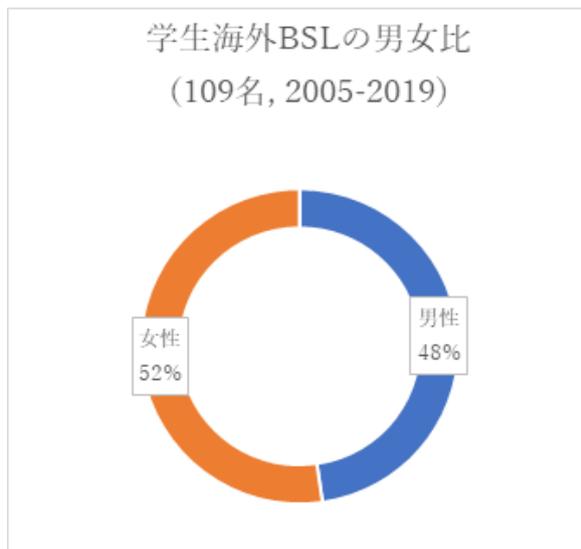
(次ページに続く)

アメリカの助成金	助成団体	サポート	助成期間	URL
Breakthrough Award Levels 1-2 (Breast Cancer)	CDMRP (Dept. of Defense)	最大375,000ドル (level1) もしくは最大750,000ドル (level2)	3年間 (level1) もしくは3年間 (level2)	<a href="http://cdmrp.army.mil/pubs/press/2016/16bcrrpreann.shtml">http://cdmrp.army.mil/pubs/press/2016/16bcrrpreann.shtml</a>
Breakthrough Fellowship Award (Breast Cancer)	CDMRP (Dept. of Defense)	最大300,000ドル	3年間	<a href="http://cdmrp.army.mil/pubs/press/2016/16bcrrpreann.shtml">http://cdmrp.army.mil/pubs/press/2016/16bcrrpreann.shtml</a>
Susan G Komen Postdoctoral Fellowship Grant (Breast Cancer)	Susan G Komen	60,000ドル/年	2~3年間	<a href="http://www5.komen.org/ResearchGrants/FundingOpportunities.html">http://www5.komen.org/ResearchGrants/FundingOpportunities.html</a>
The Postdoctoral Fellowship (Cancer)	The Hope Funds for Cancer Research	50,000ドル/年	3年間	<a href="http://www.hope-funds.org/grants/eligibility-and-application/">http://www.hope-funds.org/grants/eligibility-and-application/</a>
The Ann Schreiber Mentored Investigator Award (Ovarian Cancer)	Ovarian Cancer Research Fund	75,000ドル	1~2年間	<a href="http://www.ocrf.org/for-grantseekers/current-grant-programs">http://www.ocrf.org/for-grantseekers/current-grant-programs</a>
ヨーロッパの助成金	助成団体	サポート	助成期間	URL
Innovative Training Networks (ITN)	The Marie Skłodowska-Curie actions	国により異なる	3年間	<a href="http://ec.europa.eu/research/mariecurieactions/about-msca/actions/itn/index_en.htm">http://ec.europa.eu/research/mariecurieactions/about-msca/actions/itn/index_en.htm</a>
Individual Fellowships (IF)	The Marie Skłodowska-Curie actions	国により異なる	1~2年間	<a href="http://ec.europa.eu/research/mariecurieactions/about-msca/actions/if/index_en.htm">http://ec.europa.eu/research/mariecurieactions/about-msca/actions/if/index_en.htm</a>
Allocations de recherche doctorales	La Ligue Contre le Cancer	記載なし (通常は1,600ユーロ/月)	3年間	<a href="https://www.ligue-cancer.net/article/27236_appels-projets-recherche">https://www.ligue-cancer.net/article/27236_appels-projets-recherche</a>
Allocations de recherche post-doctorales	La Ligue Contre le Cancer	記載なし	3年間	<a href="https://www.ligue-cancer.net/article/27236_appels-projets-recherche">https://www.ligue-cancer.net/article/27236_appels-projets-recherche</a>
Aide individuelles jeunes chercheurs/ aides doctorales	Fondation ARC	1684,93ユーロ/月 (in 2010)	2年以内	<a href="http://www.recherche-cancer.net/financement/aides-individuelles-jeunes-chercheurs.html">http://www.recherche-cancer.net/financement/aides-individuelles-jeunes-chercheurs.html</a>
Aide individuelles jeunes chercheurs/ aides post-doctorales	Fondation ARC	2,707ユーロ/月 (Premier Post-Doc), 3,215ユーロ/月 (Post-Doc expérimenté)	3年以内	<a href="http://www.recherche-cancer.net/financement/aides-individuelles-jeunes-chercheurs.html">http://www.recherche-cancer.net/financement/aides-individuelles-jeunes-chercheurs.html</a>
Canon Foundation Fellowships	Canon Foundation in Europe	22,500~27,500ユーロ/年	3カ月~1年間	<a href="http://www.canonfoundation.org/">http://www.canonfoundation.org/</a>
Long-Term Fellowship	EMBO	25,000~60,000ユーロ (国により異なる)	1~2年間	<a href="http://www.embo.org/funding-awards/fellowships/long-term-fellowships">http://www.embo.org/funding-awards/fellowships/long-term-fellowships</a>
Short-Term Fellowship	EMBO	記載なし	3カ月間	<a href="http://www.embo.org/funding-awards/fellowships/short-term-fellowships">http://www.embo.org/funding-awards/fellowships/short-term-fellowships</a>
Humboldt Research Fellowship for Postdoctoral Researchers	Alexander von Humboldt-Foundation	2,650ユーロ/月	6~24カ月間	<a href="https://www.humboldt-foundation.de/web/humboldt-fellowship-postdoc.html">https://www.humboldt-foundation.de/web/humboldt-fellowship-postdoc.html</a>
Humboldt Research Fellowship for Experienced Researchers	Alexander von Humboldt-Foundation	3,150ユーロ/月	6~18カ月間	<a href="https://www.humboldt-foundation.de/web/humboldt-fellowship-experienced.html">https://www.humboldt-foundation.de/web/humboldt-fellowship-experienced.html</a>
Leibniz - DAAD Research Fellowships	DAAD/Leibniz Association	2,000ユーロ/月	12カ月間	<a href="https://www.daad.de/medien/deutschland/stipendien/formulare/leibniz-announcement-2016.pdf">https://www.daad.de/medien/deutschland/stipendien/formulare/leibniz-announcement-2016.pdf</a>
FEBS Long-Term Fellowships	FEBS	国により異なる	1~3年間	<a href="http://www.febs.org/our-activities/fellowships/long-term-fellowships/">http://www.febs.org/our-activities/fellowships/long-term-fellowships/</a>
FEBS Short-Term Fellowships	FEBS	生活費, 旅費	2カ月以内	<a href="http://www.febs.org/our-activities/fellowships/febs-short-term-fellowships/">http://www.febs.org/our-activities/fellowships/febs-short-term-fellowships/</a>
Return-To-Europe Fellowships	FEBS	国により異なる	2年間	<a href="http://www.febs.org/our-activities/fellowships/return-to-europe/">http://www.febs.org/our-activities/fellowships/return-to-europe/</a>
Co-sponsored Research Fellowships	Canon Foundation in Europe	2,000ユーロ/月+家族手当, 旅費	1年間	<a href="http://www.canonfoundation.org/programmes/co-sponsored-research-fellowships/">http://www.canonfoundation.org/programmes/co-sponsored-research-fellowships/</a>
The GEN FOUNDATION	The Gene FOUNDATION	500~5,000ユーロ (申請書による)	1回	<a href="http://www.genfoundation.org.uk/jpn/about.html">http://www.genfoundation.org.uk/jpn/about.html</a>

(2016年9月現在)

## 留学経験者の公開情報を元にした追跡調査

国際交流センターに問い合わせ、海外 BSL と留学医師のリストを入手し、男女比を比較した。



- ◆ 海外 BSL は女性の方がむしろ多い
- ◆ 海外 BSL は医師としてのキャリアが短い母集団にもかかわらず、既に 10%以上が再留学

上記の結果を基に、メンバー間で discussion をした。

- ◆ 女性医師の留学志向は十分に存在するが、現在はライフイベントとの兼ね合いから、医師になってからの留学が十分に出来ていない可能性が高い。

◆ メンバーから、過去には留学も検討していたものの、結婚して子供が生まれると金銭面や子供の教育の観点から留学に行きにくくなる、との発言があった。

◆ ライフイベントも組み込んだキャリアパスの重要性を再認識した。

◆ 2011年頃から教養1年目で“医師としてのキャリアデザイン”、“医師のはたらき方を考えよう！”といった講義が組まれている。5-6年生や研修医1年目など、もう少し医師としての働き方に現実感が出てきたタイミングで、再度、キャリアデザインについての講義に触れる機会があっても良いのでは？また、2011年より前の医師のキャリアデザインに対する価値観がアップデートされていない可能性がある。

◆ 臨床研修センターは研修プログラムの柔軟な調整・大学院入学についての説明・研究の楽しさについての説明・学会発表のトレーニングなどを行っている。更に、包括的に専門医取得・学位取得を踏まえて、留学にも結びつく様なガイダンスがあっても良いのでは無いか？

## 海外 → 国内への留学者アンケート

◆ 全37項目の質問が存在するアンケートを行った

◆ 回答者は83名（35名が非医療者）

◆ 留学開始平均年齢24.7歳であり比較的若め

◆ 留学時は84%がsingle

◆ 奨学金はMEXTが多く15万-18万円程度

◆ 金銭的準備が必要だった、と回答したのは53.7%

◆ 留学準備の上で、所属施設の事務の助けが最も重要であったと回答したのが22%

◆ 留学にあたって貯金しておくとしたのが23.2%、奨学金を探すとしたのが68.3%

◆ 最も成長した事として、内面的な成長を挙げた回答者が多い（下図）。

◆ ホームシックに陥った回答者が53.7%

◆ 留学中に奨学金を得たのは80.5%。

◆ 留学のベストタイミングは独身時と答えたのが90.2%

S3Q3. What kind of experiences did you get during study abroad?



## 国内 → 海外への留学者アンケート

- ◆ 同一の項目のアンケート
- ◆ 回答者は 38 名
- ◆ 留学開始平均年齢は 36.3 歳程度
- ◆ 留学時は 92%が結婚済みで、76.3%が子供を同伴
- ◆ 留学時に配偶者の 30.6%が無職、17%がパートタイム/時短勤務
- ◆ 留学を機に配偶者が退職したのが 23%
- ◆ 金銭的準備が必要だった、と回答したのは 86.8%
- ◆ 留学準備の上で、所属施設の事務の助けが最も重要であったと回答したのは 8%のみで海外 → 国内の留学者と比較して有意に少なかった。
- ◆ 留学をする上で貯金と答えたのが 76.3%、奨学金を探すと答えたのが 15.8%
- ◆ 配偶者との調整が必要だ、と答えたのは 76.3%、育児環境が必要と答えたのが 55.3%
- ◆ 最も成長した事として内面的な成長を挙げた回答者が多い (下図)。
- ◆ 留学後にワークライフバランスに問題点を感じた回答者は 5.3%のみ。
- ◆ ホームシックに陥った回答者は 2.6%のみと海外 → 国内の留学者と比較して有意に少なかった
- ◆ 留学中の奨学金を得たのは 50%
- ◆ 留学のベストタイミングはポストドク期間中が 52.6%で結婚後で子供がいる時が 63%を占める

S3Q3. 留学で何を得ましたか？



## 留学アンケートについての纏め

- ◆ 海外 → 国内の留學生の特徴として、若年、独身、留学先での就職を前提、といった背景が存在する。国内 → 海外の留学者としては、高齢（専門医や学位取得後）、既婚、帰国を前提とした留学、といった特徴が挙げられる。

アンケート内容で異なりが出た項目と、その考察は下記

- ◆ 留学準備の際に最もサポートしてくれた施設として**所属施設の事務**、と回答した回答者が 22 vs. 8%であった。本学での留学支援の枠組みがもっとあっても良いかもしれない
- ◆ 金銭的準備が必要と考えたのは日本 → 海外の留学生の方が多かった。年齢が上がるにつれて家庭を持って金銭的な事についての現実味が出てくると思われる
- ◆ 日本人医師は grant を取るよりも節約する、と回答した場合が多い。実際に grant を取得した回答者も半数程度しかいない。適切な grant の情報があれば、grant 取得率が上がるかもしれない。
- ◆ 結婚して留学に行った場合、ホームシックに陥る例が非常に少なかった。また、ワークライフバランスについて問題となる回答者が少なく、家庭生活としては充実した時間を過ごした留学生が多かったのではないかと推測出来る。

## まとめ

- ◆ 留学に関する意見交換において、学内で留学情報を得る上での窓口や留学の広報活動を行ってくれる部署の必要性についての要望が多い事が分かった。また、海外 → 国内の留学経験者のアンケートと国内 → 海外の留学経験者のアンケートを比較した所、本学出身者の割合が多い後者のアンケートにおいて、留学準備において本学事務事の手助けが最も重要であった、と回答した回答者が少なかった(22% vs. 8%)。留学前に留学情報についての support が得られていれば、“効率的に” 留学を行ったり人に勧めたりする事が出来ると考えられる。
- ◆ 留学に関する文献から、留学志向については個人の資質により異なる事を再確認した。留学にあたって言語面や生活面の不安を挙げる場合が多く、英語教育や海外生活における情報提供により、これらの心理的ハードルを下げられる可能性がある事が示唆された。留学の際の配偶者の雇用システム、留学先選定システム、短期留学との組み合わせの留学プログラム、多種の奨学金など、様々なサポートシステム/留学の形態がある事を学んだ。これらの情報提供があれば、多様な留学の形を選択し、効率的な留学が可能となる可能性がある。現行でその様なサポートシステムが無いので、しあわせキャリア支援センターがそれを執り行ってくれる事に強く期待したい。
- ◆ 学生海外 BSL 及び医師の留学の男女比が大きく異なる事から、女性医師の留学志向は高いものの、専門医や学位取得後に留学に行こうとするとライフイベントとの重なる点からハードルが高い点が推測された。キャリア早期にライフイベントを意識したキャリアパスを意識するのが有用かもしれない。本学が学生教育の一環として行っているキャリアパスについての講義に加え、更に、医師就学前後のキャリアパス講習も望ましいかもしれないとの意見が出た。
- ◆ 海外 → 国内留学生と国内 → 海外留学生のアンケート調査で、国内医師は結婚後、未就学児がいるタイミング前後での留学が多い事が分かった。この様な留学スタイルは留学先でのワーク

ライフバランスが向上し、ホームシックが防げる反面、家族での留学となるため、金銭面での負担が大きい事が推測された。国内医師の留学に当たって grant 取得の割合は十分で無く(海外 → 国内 vs. 国内 → 海外で 80.5% vs. 50%)、grant の情報や研究計画書の writing 指導などのサポートがあれば効率的な留学が可能かもしれない(現在、grant の一覧を作成している。リンク → [奨学金一覧 https://bre.is/CUUYPuR6](https://bre.is/CUUYPuR6))。

◆ 留学のタイミングや婚姻の有無・子供の有無により、留学に当たって問題点と感ずる点が異なるため、画一的な支援で無く、各々の状況に合わせた支援が望ましいと推測された。

◆ 留学によって、言語能力や research skill 以上に内面的成長を挙げた回答者が有意に多かった。大学の構成員の人間性が向上すれば、医局内/教室内の研究力の向上以上に、本学の総合的なレベルアップに寄与する所が大きいと期待出来る。大学全体を挙げての support が望ましいと考える。